

府中市立府中第三中学校 学校だより 《修了式号》 令和8年3月25日



敬愛

校長 稲葉 高広

〒183-0027 府中市本町4-16

☎ 042-361-9303

ホームページ <http://www.fuchu03c.fuchu-tokyo.ed.jp/>

卒業式式辞より (一部省略)

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

また、保護者の皆様におかれましても、お子様のご卒業を心よりお祝い申し上げます。

さて、本日、209名の皆さんが府中第三中学校を巣立つ日を迎えました。私が3年生の皆さんと共に過ごした時間は、決して長いものではありませんでした。しかし、その中で、強く心に残っているのが、合唱コンクールに取り組む、皆さんの姿です。

全校合唱では、後輩の模範となるような真剣な練習態度を示し、ドイツ語のソロパートに挑戦するなど一人ひとりの努力が随所に表れていました。本番では、その歌声が会場を包み込み、多くの来場者の心を打ちました。私自身も、その豊かな表現力に深い感動を覚えるとともに、3年生を、誇りに思いました。

私は昨年、招待を受けて、アメリカ合衆国の大学の卒業式に参列しました。「卒業」は、英語で *graduation* と言いますが、アメリカの多くの大学では、卒業式を *commencement ceremony* と呼んでいます。*commencement* とは、「始める」という意味の言葉です。そこには、「学びを終える場」ではなく、「新しい人生や、キャリアを始める門出を祝う場」という、強い意味が込められているのだと感じました。この経験を踏まえ、今日の卒業式を皆さんにとって「終わり」ではなく、「始まり」の式として捉え、大切にしてほしい言葉を贈ります。

それは、「努力の歩みを、決して止めてはならない。努力は、嘘をつかない。」ということです。

先月閉幕したミラノ・コルティナ冬季オリンピックでは、世界の舞台上で、多くの選手たちが懸命に努力を重ねる姿を見せてくれました。華やかな結果の陰には思うような成果を得られず、悔し涙を流した選手の姿もありました。

皆さんの3年間もきつとそれと、重なる部分があったのではないのでしょうか。頑張っているつもりなのに結果が出なかったこと。努力しても誰にも気付いてもらえなかったかのように、感じたこと。

「自分は向いていないのではないか」「この努力に意味はあるのだろうか」と、立ち止まった日も、あったかもしれません。それでも皆さんは投げ出さずに、ここまで歩んできました。クラブ活動での厳しい練習。勉強で思うようにいかなかった日々。人間関係で悩みながらも、前を向こうとした時間。その一つ一つが、確かに皆さんの中に積み重なっています。

努力はすぐに結果として表れないことがあります。だからこそ、「意味がなかった」と思ってしまいそうになることもあるでしょう。

しかし、努力は決して、嘘をつきません。努力は、目に見えないところで皆さんを支える力となり、気付かないうちに、次の一步を踏み出す自信へと変わっていきます。それは、知識や技能だけではありません。あきらめずに続ける力。失敗から学ぼうとする姿勢。仲間の頑張りを認め合える心。そうした力こそが、これから先の人生で皆さんを支え続ける本当の財産です。

ここでもう一度、先ほどお伝えした言葉をお伝えします。

「努力の歩みを、決して止めてはならない。努力は、嘘をつかない。」

この言葉は、今日この(卒業式の日)だけのものではありません。皆さんがこれから先、迷いや不安に立ち止まったとき、自分を支える確かな指針となる言葉です。

府中第三中学校はいつまでも、皆さんの母校です。ここで過ごした日々、共に学んだ仲間との出会いは、皆さんにとってかけがえのない財産であり、青春の学び舎は、まさに、魂の故郷です。

それぞれの場所で、自分らしく輝いてくれることを、心から願っています。

保護者の皆様におかれましては、これまでお子様を温かく見守り、その成長を支えてこられましたことにあらためて心から敬意と感謝を表します。教職員一同、これからも卒業生一人ひとりの歩みを見守り、その成長と活躍を心から応援してまいります。

結びに、卒業生の皆さんの前途に、幸多からんことを祈念し、私の式辞といたします。

令和8年3月19日

府中市立府中第三中学校長 稲葉 高広

府中にほんご作文コンクール

3月7日（土）に東京農工大学農学部本館講堂で行われた表彰式で発表しました。

「優秀賞」

「日本に来てみて」

2年D組 梁 澤霖

みなさん、こんにちは。ぼくは去年の3月に日本へ来ました。今は、中学校二年生です。その前、ぼくは、中国に住んでいました。

ぼくが小学2年生の時、お父さんとお母さんは、日本に行って、仕事をしていました。その時から、ぼくは、おじいさんとおばあさんの家に住んでいました。

5年生の時、お母さんが国に帰ってきましたが、お母さんから「日本に行って、勉強した方がいいと思うよ。」と言われました。でもぼくは「行きたくないです。」と答えました。

そして、お母さんは「行きたくなかったらいいよ。」と言いましたが、毎日、ぼくにたくさん日本のいいところを言うので、ぼくは洗脳されて日本へ来ることになりました。ぼくは、冬休みの時に日本に来ました。冬休みから中学の入学式までたくさん時間がありました。ぼくは、早く日本の環境に慣れたらいいなと思って、スーパーへ行くことにしました。そして、行ってみたら、物を間違えて買っちゃったり、道に迷ったりして、困ることがたくさんありました。

これだけで、もう面倒くさいのに、春休みが終わって中学校に入学して、授業を受ける時にも日本語ができないから何もわからなくて、すぐにねむくなりました。それから、ぼくは日本語を勉強し始めました。

そして、簡単な単語はできるようになったけど、授業はぜんぜんわかりませんでした。

そして、ぼくが毎日行きたい場所はクラブだけでした。そこで、先輩は手ぶり身ぶりで教えてくれたり、たくさんの友達も話しかけてくれました。

でも、日本語ができないから、日常生活も難しかったです。

こうやって半年すごしたら、日本語は大分できるようになりました。前よりもすごくよくなりました。でも、中学生だからたくさんの事を覚えなければならないし、テストの前には、復習をしなければならぬし、面倒くさいと思いました。

1年生が終わって、2年生になって、日本語がやっとできるようになったし、部活動で後輩も入ってきました。後輩に教えてあげたり、2年生として、まだたくさんの事をやらなければなりません。今は部活動がすごく楽しいです。そしてぼくは、もっと挑戦していきたいと思います。

「佳作」

「ぼくのふるさと」

1年F組 何 珮鋒

夏休みに中国にかえりました。中国へは、日本からひこうきで2時間45分くらいかかりました。ひこうきのなかですっとねてました。目がさめたら中国でした。

中国では、友達と小学校の先生に会いにいきました。先生に日本の中学校の話をしました。日本語の勉強していると話しました。

先生は、「成長したね。」といました。

小学校のときはおこられていたので、先生がそういつてくれてうれしかったです。

そのあと、みんなでこうていをはしりました。1500mと800mのきょうそうをしました。友達とはしるのがすきなので楽しかったです。

中国にかえれば、ぼくは中国語で話します。それは僕にとってとてもうれしいことです。

次に中国にかえるのは来年の夏休みです。いまから楽しみです。

笑顔と学びの体験活動プロジェクト

3月13日(金)の5・6時間目、上方落語家の「桂 三幸」氏の落語会+落語入門が行われ、三中生と先生方は大いに笑い、楽しい時間を過ごしました。

落語を聞く前には、「落語の仕草」なども教えていただき、落語をする側と聞く側の二重の楽しみを体験することができ、とても有意義な時間となりました。



三中茶道教室 発表会

3月14日(土)に本校の茶室にて、茶道教室発表会が行われました。当日は、厳かな雰囲気の中、1年間のお稽古の成果を披露しました。多くの保護者や同級生が集い、おいしいお菓子とお抹茶をいただきました。



三中生の活躍

(敬称略)

和太鼓クラブ

「第14回府中市中学校和太鼓コンクール」

「優秀賞」 府中第三中学校 チーム「和楽」

2年 渡邊 晴香/2年 横山 明咲/2年 遠藤 結月

2年 石田 賀夕/2年 林 萌々香/2年 平岡 真優

男子テニスクラブ

「令和7年度 第9ブロック研修大会」 男子2年 団体

「第三位」 府中第三中学校

女子バレーボールクラブ

「令和7年度 第9ブロックバレーボール1年生大会」

「優勝」 府中第三中学校